

令和5年度第2回葛飾区環境審議会 議事録要旨

【日時】 令和6年2月14日（水） 午前10時00分～午後0時10分

【会場】 ウィメンズパル 3階 洋室A

【出席委員】 崎田委員、藤野委員、矢後委員、竹内委員、赤澤委員、島田委員、下井委員、田中委員、鳥山委員、武者委員、菅原委員、湊委員、大川原委員

【欠席委員】 沢崎委員、関根委員、谷茂岡委員、胡委員、池上委員、大友委員

【事務局】 宮地環境部長、木下環境課長、大澤リサイクル清掃課長、岡部清掃事務所長、秋元施設整備担当課長、吉永、村上、下田

【次第】

1 開会

2 議事

(1) COP28への参加について

(2) (仮称) 葛飾区再生可能エネルギー導入戦略(案)について

(3) 葛飾区公共施設における太陽光発電設備等導入可能性調査の結果について

(4) 葛飾区における3Rの進捗状況について

3 閉会

【資料】

資料1 国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)への参加について

資料2 (仮称) 葛飾区再生可能エネルギー導入戦略(案)について

資料3 葛飾区公共施設における太陽光発電設備等導入可能性調査
業務報告書 【概要版】

資料4 「布団類の資源化」協定締結について、製品プラスチックの分別回収・資源化について

発言者	審議内容
<p>会長</p> <p>事務局 (環境課長)</p>	<p><u>1 開会</u></p> <p>定刻になりましたので、これより令和5年度第2回葛飾区環境審議会を開会いたします。</p> <p>司会・進行を務めます会長の崎田と申します。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議題に入る前に、事務局より連絡事項がございます。</p> <p>(委員の紹介、出欠の報告及び資料の確認を行った。)</p>
<p>事務局 (環境部長)</p>	<p><u>2 議事</u></p> <p><u>議事(1) COP28への参加について</u></p> <p>(資料1に基づき、説明した。)</p>
<p>委員</p>	<p>(委員等からの主なご意見は以下のとおり)</p> <p>政府の決定よりもさらに先に「どうやって脱炭素をやっていくのか」という議論が行われる中で、青木区長から23区を代表してかなり先端的な取組を現地で発表されたのは意義が高かったと思う。これは葛飾区で実際にアクションが出されていて、ただ言っているだけではなくて行動があったからだと思地に行って実感した。</p> <p>おそらくこのような国際の場でも、今度は「実際にどう動いているのか」という関心がまたCOPに寄せられると思う。この審議会を通じて葛飾区の活動がさらに進んでいく様子をまた現地か、もしくは違う形で発信してもらえればと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>私も今回のCOPは現地に行ったが、大変な政府間交渉について連日報道されたり、会場で世界各国、あるいは世界のNGO、様々な人が地球温暖化についてどのように解決していくか具体的に発表していて、素晴らしい意義のある場だと思った。</p> <p>特別区でゼロカーボンの実現についての研究会が2021年、2022年とあり、私はそのリーダーを務めた。その時の調査結果としては、このまま23区それぞれが持っている将来目標に向けた取組を続けても、2050年カーボンニュートラルの実現は非常に難しい状態というものだった。やはり一つの区だけでは難しいものもあるため、それぞれの区が頑張りつつ連携をして効果の上がることを</p>

委員	<p>やらなければいけないという報告書を出し、23区に向けて発言等もした。この成果を受け止めてしっかり動こうとしていることを応援する意味でも、研究をもとにして取り組んだ成果であることを社会に発信する意味でも私も現地へ行った。</p> <p>このような状況を葛飾区がリードをし、2030年、2050年により心豊かに健康的に暮らせる地域社会を皆で作っていかうと発信したことは大変意義があると思う。</p> <p>感慨深いのは、2020年2月に都内の基礎自治体で初めて2050年カーボンニュートラルを宣言したことがここまできた、というところである。どちらかというと区長がずっと先のほうに走っていった印象があるため、これから頑張っって追いかけていかなければならないと改めて感じた。</p> <p>しかし、中小企業の立場からすれば、この問題については他人事である。一部の企業は関心を持って活動に取り組んでいるが、全体で見ればまだ小さいため、今回のことが一つの追い風となることを期待している。葛飾区は特に製造業者が多いため、スコープ3の問題は取り組まなければならないが、業界としてはまだ壁は高く厚い印象である。</p>
会長	<p>この分野について他人事とあったが、これは日本中の地域企業も同じ状態ではないかと思う。現実を変えていくときにどのように地域企業を支援していくか丁寧に考えていかなければならない、しかしそれをコーディネートする人が少ないということで、23区の調査研究機構では、地域企業が金融機関にアドバイスをもらい脱炭素化へ取り組んでいくことが現実的ではないかと話した。その際には、金融機関と事業者が連携できるような体制を支援して現実を変えていく、という点を強調した。</p> <p>まだまだこのような動きは少ないかもしれないが、社会の動きの中で情報をつかみながら進めていき、先進事例が出ることで皆がやりやすくなるのが大切だと思っている。</p>
委員	<p>「金融機関と連携した脱炭素化の支援」とあるが、葛飾区は地域金融機関が多いため、そこに働きかけて「こういう支援の方法がある」ともって区民にPRして、「これをすれば得をする」という方法を考えると良いと思う。</p>
委員	<p>葛飾区民にとって区長が代表で参加されたというのは誇らしいと思う。</p>
事務局 (環境課長)	<p>議事(2)(仮称)葛飾区再生可能エネルギー導入戦略(案)について</p> <p>(資料2に基づき、説明した。)</p>

	<p>(委員等からの主なご意見は以下のとおり)</p>
委員	<p>内容が非常に難しいと感じた。</p>
会長	<p>このような分野の話は、わかるようにかみ砕いていかなければ中々地域に広がらない。やはり皆が使いこなせるような計画として、多くの人がきちんとわかるように、今後伝えていくことが大切である。</p>
委員	<p>区民の意識として興味はあるが、コストがかかる点がブレーキングになっている。区民の意識を変えるためには「可視化」が重要だと考えている。</p> <p>区民は躊躇する面もあれば、区民意識調査から「災害」に対する関心の高さが読み取れる。説明の中で、地域社会でエネルギーを自立化していくための推進についての話があったが、それを本当に「自然災害に強い社会にしていく」という意識のもと、進捗度を区民にわかりやすい形で発信してくれると、区民は「残りを達成するには何を行動に起こせばよいか」、「それが望んでいる自然災害に強い、安心・安全につながる社会になっていく」と考えるのではないかと。</p> <p>事業者においても、応援をしたいという気持ちはあるため、具体的な応援方法等を発信してくれると区民は取り組みやすい。</p>
委員	<p>葛飾区はすごいまちなのだと思う。そのため、率先して葛飾区から都内だけではなく他県、全国に向けてやってほしい。</p> <p>質問だが、この再生可能エネルギー導入戦略とは、区民向けに作られたものなのか。</p>
事務局	<p>この導入戦略は、今後葛飾区全体としてどのように脱炭素に向けて進めていくかという計画として立てているため、これを基に具体的な施策を皆さんと一緒に話し合いながら進めていくものである。</p>
委員	<p>これは提案だが、区外から見ると葛飾区は子育てに手厚い環境に優れている印象がある。そこで、この戦略を基に区民へ再生可能エネルギーの導入についてPRする機会がある場合、大人だけではなく、子ども向けのイラストややさしい日本語を用いた資料・PR動画を作成すると良いと思う。</p> <p>子ども向けの動画は非常に訴求力が高いため、具体的にまとめてもらえるのも嬉しいが、区民の立場としてはわかりやすい日本語でまとめてもらえると思う。</p>
事務局	<p>ぜひ区民の皆様、若い方にもわかってもらえるような動画やシンポジウム等を積極的に今後やっていきたいと思う。</p>

	<p>議事（3）葛飾区公共施設における太陽光発電設備等導入可能性調査の結果について</p>
<p>事務局 （施設整備担当課長）</p>	<p>（資料3に基づき、説明した。）</p>
<p>委員</p>	<p>（委員等からの主なご意見は以下のとおり） 公共施設への太陽光発電設備の設置は有用な取組だ。今後検討を加速させるということだが、大まかなタイムスケジュールや進捗度が判明していれば教えてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>太陽光発電設備の公共施設への設置の今後の進め方については、現段階ではポテンシャル、見込み設備容量や平米数等の大まかな数値を把握した段階である。また設置手法についても、自己所有型や第三者所有型など様々ある中で、建物のタイプや取組難易度、導入効果の大きさ等を踏まえ、今後は工事の優先度や設置手法の即効性についても検討し、具体的な計画を作成して方針を立て、実際に動いていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>とても素晴らしい取組だと思う。これは基本的な建物の屋根だけに設置すると考えてよいか。</p>
<p>事務局</p>	<p>この調査は、公共施設の屋根のみの設置を想定したものである。</p>
<p>委員</p>	<p>その意味では環境への配慮も十分できるのではないかと思う。一つ不安なのは、実際に設置するとなった場合にはそれなりの工事が必要になると思うが、おそらく区民の中での最大の関心事は地震災害であると思う。例えば防風林のような災害に強い自然があり、それが設置に邪魔だから切られてしまうという不安が少しある。設置にあたっての周辺環境への配慮も考えながら設置を考えてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>この件については、やはり景観上も大丈夫かということ、成果についても区民がわかるような形で可視化してほしい。 景観に関して先ほどもあったが、日当たりについても配慮してほしいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回太陽光パネルを設置する部分は、あくまでも公共施設の屋根である。今後は公共施設だけではなく、公共が持っている土地部分への設置も実施していく必要があるため、その際は当然、既存の樹木等には配慮しながら進めていく。 景観への配慮については、太陽光パネルを多量に設置すると景観に影響を及ぼすことは確かである。近隣住宅への影響についてももしっかり考慮しながら進めていかなければならないと考えている。</p>

委員	<p>成果の可視化については、太陽光発電設備を設置した施設のほとんどにモニターを設置しており、現在の発電量、過去の累積発電量と使用量がわかるようになっている。それは今後も継続しつつ、トータルでの発電量、今回調査したポテンシャル量と比較しての進捗についても把握しながら進めていきたい。</p> <p>太陽光発電の整備に既存樹木の伐採が確実に必要となってしまうと本末転倒である。防災林の機能もあるほか、CO2削減のポテンシャルの可視化にもつながるため、そこへの配慮は必要である。</p>
事務局 (リサイクル清掃課長)	<p>議事（４）葛飾区における３Ｒの進捗状況について</p> <p>(資料４に基づき、説明した)</p>
会長	<p>(委員等からの主なご意見は以下のとおり)</p> <p>資料には葛飾区のリサイクル率・資源化率が 23.5%、区民一人当たりの家庭ごみ量が 472g で、このまま頑張れば目標達成が可能という話があったが、これは 23 区の中で考えるとどのような状況なのか。</p>
事務局	<p>各区競争してごみを減らす努力をしているが、葛飾区の数字はごみ減量の目標を掲げて確実に減らしている状況である。リサイクルのやり方についても、比較的燃やしてしまう傾向にあるごみも葛飾区は水平リサイクルにこだわっているため、さらに再資源化していくという意味では 23 区の中で最も積極的だと思う。今後についても、ごみ減量の分野は区によって温度差があるため、各区が競争してより減らしていくよう葛飾区として考えていきたい。</p>
委員	<p>全体を通して</p> <p>今回の審議内容について、議事（１）は非常に素晴らしい成果だと思うし、区長も前向きということで、ぜひ頑張って進めてほしいと思う。</p> <p>またこれまでに出了意見の中でも、中小企業への支援が非常に大事という意見と、家庭部門に理解してもらうためにはわかりやすさが非常に大事という意見にも共感した。</p> <p>私は、今までの議題を空間計画にどう落とし込んでいくかが重要だと考える。</p> <p>中小企業については、共同建替えやシェアオフィスといった個別のことだけでなく、産業としても中小企業を支援していくために、業務をシェアすること等がエネルギー減になるのではないかと考えている。根本的な部分で中小企業を事業として産業支援をしていきながら空間計画としてまとめ、それが環境にもやさしくなる仕組みを構築する必要があると考える。今の仕事をしながらさらにプラスで何かしてもらうというのは、中小企業の方の負担になると思うため、ぜひ産業部門と連携してほしい。</p>

事務局	<p>吸収源対策について、現在は街路樹 1 本の CO2 の固定量が可視化できる仕組みが既にあるため、今後区内の緑についても、そのような可視化の仕組みの導入を検討してはどうか。</p> <p>同じく吸収源対策について、議事（2）の資料に区外の森林を守ることで保全につなげる取組があるが、区内の河川の水害について区民は恐れがあるため、例えば区内の河川上流域の森林を区民で保全することによって、水害対策と吸収源対策に加え、森林保全が自分たちの流域の保水力を高めるというストーリーを作ると区民の賛同を得られるのではないかと。ぜひ検討してほしい。</p> <p>中小企業の支援については、インセンティブを何かしらつけていかないと中々前に進まないため、産業経済の部署と連携しながら葛飾区にあった施策をしっかりと考えていきたい。</p> <p>緑の可視化については、ご意見にもあったとおり「見えることによって理解が深まる」ところもあるため、様々な技術を参考にしながら進めていけたらと思う。</p> <p>水害について流域治水の話であるが、これは適応策としてもしっかり取り組まなければならない上に葛飾区は川に囲まれているため区民の水害対策への関心は非常に高い。ここに関しても今後しっかり進めていきたい。</p>
委員	<p>広報のやり方について、動画にする等様々な工夫をしていく点には賛成だが、高齢者はそういうものを見る機会がないため、紙媒体でも同様のことを行ってほしい。</p> <p>広報紙について、私の周りには読んでいない区民が多い。そこで、例えば広報紙の中でも特に推したい面を大きくして様々な場所に貼り、より多くの区民の目に届くような工夫をすると、こういった問題についても、少しでも区民の目に留まるのではないかと。</p> <p>また質問だが、太陽光パネルについて、民間の集合住宅でも使うことは検討しているか。</p>
事務局	<p>民間の集合住宅に対しても助成金を出して、率先して取り組んでもらえるよう努力をしているところである。</p>
委員	<p>助成金事業のため難しいかもしれないが、モデルハウスのようなものがあれば、より普及が進むと考える。</p>
委員	<p>環境の取組と聞くと「制限する、我慢する」といったイメージが強いが、断熱住宅や蓄電池というのはむしろ区民がより快適に過ごせるための取組で、素敵な環境の取組だと思う。</p> <p>環境とは少し離れるが、駅周辺で居酒屋が多い道は汚れていることが多く、気にしている区民もいる。区での環境の取組の活動が大きくなるほど、まちの景観</p>

委員	<p>やきれいさは際立ってくると思うため、そういった部分も対応してもらえるとありがたい。</p> <p>環境活動をする中で、小学校の児童は素直で勉強熱心であると実感した。コロナ禍を経て小・中学校ではタブレット端末を使用していることから、メール配信等を利用して子どもたちから普及啓発していくことができるのではないかと。</p> <p>話題にもあったが、広報紙やホームページ自体にもとっつきにくい部分があるため、基本的な部分から区民への情報発信の方法を検討していく必要があるのではないかと。</p> <p>またエコマスターのような名称の検討は、環境分野それぞれで境目があるように思える。環境全体を統合した大枠の名称と分野ごとの名称を作る等、環境部全体でそのような仕組みを作ってほしい。</p>
委員	<p>3Rについて、製品プラスチックの資源化をしてくれるのはありがたい。しかし化学的には様々な種類のプラスチックがあるため、その回収というのは相当なコストを覚悟しなければいけないと思う。</p> <p>また町会の仕事をする中で、LEDイルミネーション装飾等への助成金事業が気にかかっている。これは温暖化対策に逆行する事業ではないだろうか。2050年ゼロエミッションへ向かっていこうとする中で、豊かな生活、楽しい生活も保ちながら進めていくという理由もあるだろうが、余計なエネルギーを出すところに助成金を出すというのはいかがなものか。</p>
委員	<p>イルミネーション装飾のほとんどはLEDを使用している。また日暮れの早い時期には照明の効果もあると考えているため、そのような意見はやや極端ではないだろうか。</p>
会長	<p>実際に行うときはLEDで配慮をしている、しかし総量を考えればもう少し考えたほうが良いのではないかと、という意見もあるというものだった。</p> <p>このように様々な意見があるということを皆で共有しながら、「どういうところを落としどころにしていくと皆が納得するのか」ということを、色々なところで話を続けていけたらと思う。</p>
委員	<p>東四つ木工場ビルを改修する時に、太陽光発電を設置することを検討してはどうか。</p>
会長	<p>具体的な地域名を出してご提案いただいた。関係する部署、関係する方は、色々な提案も踏まえて考えてもらえるとありがたい。</p>
事務局	<p>ご意見は内部で検討し、反映できるところはしっかり対応していきたい。</p>

